

青森の北洋硝子株式会社へ。 五十嵐氏と黒壁スタッフがビワパール硝子量産の打ち合わせ。

琵琶湖産イケチョウガイを細粒化した原料をガラスに融合するという特殊な製法を担っていただくガラスメーカーが中々見つからない中、ハンドメイドガラスを得意とする青森の北洋硝子株式会社さんと協力関係を得ることが出来ました。ガラス作家の五十嵐氏と黒壁スタッフが工場に赴き、琵琶パールガラスの理想的なデザインと量産体制の打合せを行いました。



細粒化した貝殻を混ぜ込んだ際に発生する細かな泡。その表現は、量産体制では安定的に生産することが困難ということで断念。細粒化した粉状の貝殻をテクスチャとして可視化できるデザインで進めたいという意向を北洋硝子にお伝えし、まずは既成の金型で数種類の形状と、社内で協議して決定した「クリア、白、ブルー」の3色でサンプル制作していただきました。

北洋硝子の試作では、イケチョウガイの細粒化した貝殻のテクスチャ含有量が少なめで感覚が掴みづらいものでしたが、ガラス原料の構成素材として完全に透明になるまで溶かし込むよりは、貝殻の質感が残るように仕上げる方法で進めることになりました。

琵琶湖を活かした商品とは。 今後の量産に向けて。

これまでの試作では、イケチョウガイという素材はガラス製造会社にとってとても扱いにくいものでした。

全国の地方で行われているガラスのオリジナル化は、大体そこで採掘される鉱石や土砂等を変量調合して作られています。万葉集にも詠われた琵琶湖の真珠は琵琶湖とともに強烈な地域性を放っており、そこには「ストーリー」が生まれます。どこかの真似ではなく滋賀らしさを黒壁のフィルターを通じて発信していきたいと思えます。

そして、この企画のスタートに立ち返り、琵琶パールガラスの販売と普及により、琵琶湖の浄化と琵琶湖真珠の復興を願っています。

